

令和6年度 地域情報化アドバイザー制度活用報告書

地域情報化アドバイザー制度の活用実績について、下記のとおり報告します。

記

1. 申請団体情報

1-1. 申請団体

団体名	熊谷市			代表者名	熊谷市長 小林 哲也
担当者部署(属性)	その他	担当者部署名	市長公室政策調査課	連絡先電話番号	048-524-1114
担当者役職	主任	担当者氏名	小林 仁美	連絡先E-mail	
住所	360-8601 埼玉県熊谷市宮町二丁目47番地1				

1-2. 推薦団体（「区分」が「協議会」または「NPO・商工会・大学等」の場合のみ入力）

団体名		連絡先部署			
担当者氏名		連絡先電話番号		連絡先E-mail	

1-3. 支援を求める内容

支援方法	職員向け啓発・研修(単独)	事業名(予定)	業務改善
概要	業務改善や政策立案において、生成AIの技術がどのように役立つかを学び、実務に即した活用方法を習得することを目指します。		
支援を求める分野	AI活用 生成AI活用		

2. 地域情報化アドバイザー派遣実績

2-1. 対応日・時間	期日・支援内容の変更あり	受付番号	変更後の派遣日	変更後に実施した支援内容	実地/オンライン
	有	295	令和6年12月20日	講演	実地
	派遣日予定日(申請書より)	支援内容(申請書より)	開始時刻	終了時刻	内休憩時間(分)
	令和6年10月30日	講演(実地)	13時15分	17時00分	20
			活動時間(分)	205	
2-2. 派遣場所	会場名	熊谷市役所	最寄駅	JR熊谷駅	
	所在地	埼玉県熊谷市宮町二丁目47番地1	最寄駅からの交通手段	徒歩(15分)又はタクシー	

3. 派遣アドバイザーに対する評価と要望

支援を受けたアドバイザーに対する評価をお願いします。

アドバイザー	小塩 篤史
評価	大変よい
上記評価の理由(どのようなところがよかったか等詳細に)	生成AIの歴史や仕組みなどの概要について、初心者でもわかりやすいように体系立ててお話しいただき、受講者からも「わかりやすく面白かった」との声が多くありました。生成AIの使い方だけではなく研究や実業家という側面からお話しいただく貴重な機会をいただき、より理解が深まったと感じています。また、講義の雰囲気も意見を言いやすいように工夫していただき、職員の質問も活発になりました。多種多様な質問にもお答えいただき、受講者の満足度にも繋がったと思います。
アドバイザーへの要望事項	特にありません。

4. 依頼内容及び支援を受けたことによる成果・効果

4-1. 支援を受けた対象者	属性(職員、一般、企業等)について【自由記述】	合計人数	44人
	属性	企業・団体	その他(学生など)
	自治体職員	0	0
	住民	0	0
	人数	44	0

4-2. 支援を受けるにあたって目指した成果と実際に支援を受けたことで改善又は解決した成果・効果

事業の課題・問題点(具体的に記入下さい)	生成AIの進化により、多くの業務が効率化できる可能性があるものの、その活用方法やリスク管理についての理解が不足しているため、あまり活用に至っていない。
支援により目指す成果(具体的に記入下さい)	急速な発展を遂げ、今後の更なる躍進が見込まれる生成AIについて、将来を見据えて業務に活用していく基礎を学び、職員が生成AIを活用して自ら業務改善を行うきっかけとしたい。

アドバイザーに支援を受けた内容 (具体的にご記入下さい)	講義内容 ・生成AIの特性について(これまでの歩み、生成AIの仕組みなど) ・リスクマネジメントについて(使うリスク、使わないリスク) ・生成AIの今後の展望について ・効果的な利用方法について(文章、画像、動画、音楽、プロンプト作成実践)
支援を受け改善又は解決された内容 (具体的にご記入下さい)	今回の勉強会では、入門として、生成AIを全く使用したことがない職員や使い方が分からないために活用できていなかった多くの職員が参加しました。生成AIの仕組みや特性、リスクマネジメントについて学び、適切な対応策を習得できた。さらに、生成AIを効果的に使用するためのプロンプト作成のコツや他のツールとの組み合わせ技(使い方をAIに聞く等)は、職員からは「分かりやすい、これなら使えそう」との声があり、活用の幅の拡大を見込めた。 勉強会を通じて、生成AIの有用性を実感し、挨拶文作成、データ分析補助、市民向けチラシ作成など各職員が具体的な活用策を考えるに至った。
具体的な成果物	最も当てはまるものをリストより選択下さい。 <input type="checkbox"/> ⑥途中段階であり、具体的な成果物はできていない 任意参加としたため、多くても30名程度を予定していたが、予想を上回る受講者となり、まず、内在する生成AIへの関心の高さを知ることができた。アンケートによると、大多数が活用の可能性を実感しており職員のマインド醸成が図られたと考える。
改善又は解決されなかった内容 持ち越しとなった内容 (具体的にご記入ください)	当初予定していたデータ分析については、打ち合わせ際に受講者の生成AIの理解度を考え、まずは生成AIについて基礎をおさえることとしたため、当日は活用紹介程度にしていた。しかし、生成AIで分析をする方法だけでなく、BIツールの使い方を生成AIに聞くという組み合わせ技など、活用のヒントを得ることができた。
アンケートの内容と分析結果	講演・セミナー又は個別の事業支援の実施にあたりアンケートを行った場合は、その内容と分析結果についてご記入下さい。(EXCELやPDFでの分析結果を添付されても結構です。) アンケートを行わなかった場合はその理由をご記入下さい。 別添のとおり 任意アンケート 回答率86% 受講前に業務で活用していた割合は19%であったが、受講後は活用できそうが71%と大幅に増加し、今の業務では該当しないが今後の参考になったの27%と合計すると98%の受講者が活用可能性
4-3. 今後の計画	最も当てはまるものをリストより選択下さい <input type="checkbox"/> ③現段階では課題・問題が残っているため未定 生成AIについて理解が深まり、職員の活用に対する需要を確認できたので、活用できる環境(市の利用ガイドライン等利用方法の周知、生成AIの導入)の整備について検討していきたい。
4-4. 事業の最終的な目指す姿	職員が自ら生成AIを活用した業務改善を行うとともに、より良い市民サービスの提供を行う。このことによって市民の信頼と満足度向上を図る。

5. 報告書に関する地域情報化アドバイザーホームページ「派遣事例」への掲載許可

掲載許可

掲載可

<https://www.r-ict-advisor.jp/cases-case-good-practices/past-year-all-houkoku/>

なおくその他>を選択した場合、具体的な記入が必要となりますのでご注意ください

6. 地域情報化アドバイザー支援の様子

今回の派遣における地域情報化アドバイザーの支援の様子がわかる「写真(JPEG)」を次ページに数枚程度貼り付けて下さい。

